

第52回国際原子力機関(IAEA)総会の結果について

平成20年10月7日

内閣府
原子力政策担当室

国際原子力機関(IAEA)の第52回年次総会が9月29日～10月4日にウィーンにて開催され、我が国から松田岩夫参院議員(元・内閣府特命担当大臣(科学技術担当))を政府代表とする日本政府代表団が出席した。

初日の29日午後に松田代表が政府代表演説を行い、我が国における原子力平和利用の取組みとIAEAへの貢献、さらには次期IAEA事務局長選に天野之弥ウィーン代表部大使を擁立することの表明と天野大使への支持を出席各国の代表に力強く訴えた。また、米、英、仏、露、印等の10ヶ国の政府代表と個別会談を行った。

1. IAEA総会概要

○開催期間:平成20年9月29日(月)～10月4日(土)

○開催地 :IAEA本部(オーストリア・ウィーン)

○加盟国数:145カ国(平成20年9月現在)

○主要議題:IAEA活動に関する事務局長演説、各国政府代表演説、
2007年決算および2009年予算の承認、各種決議案の審議と承認、
保障措置や核セキュリティ等の強化と効率化、北朝鮮やイランの保障措置問題等。

○日本代表団:松田岩夫参院議員(元内閣府特命担当大臣(科学技術担当))

天野之弥ウィーン代表部特命全権大使、近藤駿介原子力委員長、
西川泰藏内閣府大臣官房審議官、土橋久内閣府政策統括官付参事官、
佐野利男外務省軍縮不拡散・科学部長、中原徹文科省科学技術・
学術政策局次長、他。

○主要国出席者:

米国:ボドマン・エネルギー省長官

仏国:シャテル産業消費担当長官

英国:ウィックス・ビジネス・企業・規制改革省エネルギー担当閣外大臣

露国:キリエンコ・国営公社「ロスアトム」社長

中国:陳求発・国家原子能機構主任

2. 政府代表演説概要(全文は別添1参照。仮訳を別添2に添付。)

○初日の9月29日、15時20分(現地時間、以下同じ)から約20分間、松田岩夫参院議員(元・内閣府特命担当大臣(科学技術担当))による政府代表演説が行われた。

○演説では、まず、我が国が原子力平和利用のモデル国としてIAEAに積極的に貢献してきたことを述べ、IAEAの更なる発展・強化に向けて一層の貢献を果たすために、原子力および核不拡散分野での豊富な実績を有する天野之弥ウィーン代表部大使を次期IAEA事務局長選に擁立することを表明し、すべての加盟国に対して天野大使への支持を力強く訴えた。

○次に、原子力の平和利用に関しては、原子力発電がエネルギー安定供給と地球温暖化対策に貢献する有効な手段であることを指摘し、クリーン開発メカニズム(CDM)の対象として検討すべきと提案した。また、原子力発電を適切に導入・拡大するためには、核不拡散／保証措置(Non-proliferation/ Safeguard)、原子力安全(Safety)、核セキュリティ(Security)の「3つのS」が重要であることを指摘し、さらに3Sイニチアチブ、基盤整備のための特別拠出、GNEP(国際原子力エネルギーパートナーシップ)等の国際技術協力、核燃料供給保証のフォローアップなどの取組みについて述べた。

○一方、核不拡散体制の強化については、唯一の被爆国である我が国が引き続き世界に核廃絶を訴えていく決意を表明し、2010年NPT運用検討会議や追加議定書の重要性を訴えた。また、個別の国への言及として、北朝鮮とイランに対する強い懸念、インドに対する核不拡散取組促進、リビアの核兵器放棄への歓迎を表明した。

○まとめとして、IAEAがその重要な使命を達成するよう、我が国が国際社会の先頭に立って引き続き貢献していく決意を述べて、再度、天野候補への支持要請を行い(天野大使は会場で立ち上がって聴衆に挨拶)、演説を締めくくった。

3. 松田政府代表と各国代表との個別会談

○29日午前中から30日午後にかけて、米、仏、英、印、リビア、ブルキナファソ、ウルグアイ、露、マレーシア、ベトナムの10カ国の代表と個別会談が行われた。我が国からはIAEA事務局長選での天野大使への支持を各国に要請した。

4. プレス発表

○現地での邦人プレスに対する会見が、政府代表演説後の29日16時からオーストリアセンター内で行われた。松田政府代表が「代表演説および個別会談で、事務局長選での天野大使への支持を各国に要請した。」と説明した後、記者側から天野大使擁立に対する各国の反応やインドとの個別会談内容、燃料供給保証の進捗等について質問があった。

○日本側でも現地会見に合わせてプレス発表を実施した。

5. 次回総会の予定

○第53回IAEA総会は、2009年9月14日～19日に開催予定。

以 上